

デーリー東北

2026年(令和8年)1月20日(火曜日) (11)



原子力の役割や課題について議論する学生ら

原子力発電 役割や課題は

八工大生と原子力 産業OBが対話会

八戸

八戸工業大は16日、YSアリーナ八戸で学生と原子力産業OBとの対話会を開き、原子力の役割や地域との関係について意見を交わした。

国の原子力産業基盤強化事業の一環。原子力産業OBらで構成する日本原子力学会シニアネットワーク連絡会(SNW)の協力を得て毎年実施している。

同日は3、4年生19人とSNW会員8人が参加。SNW東北の古川榮一さんが「原子力の役割と地域振興」と

題して、日本のエネルギー自給率の問題や原子力発電の現状と課題、青森県の役割などを紹介。その後、参加者は4班に分かれて議論し、原子力発電や核燃料サイクルなどについて理解を深めた。

工学部機械工学コース3年の菊池建さん(20)は「原子力発電について、高レベル廃棄物の問題を棚上げしていることに違和感を持っている。対話を通じて、発電量に比べて放射能は少なく、地球温暖化対策のためには必要だと感じた」と話した。(向屋敷萌)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。